

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	吉原 潤
------	------

主な担当科目	芸術運営基礎演習,芸術鑑賞①,芸術特別研究Ⅰ,芸術特別研究Ⅱ,卒業研究
シラバス	ここをクリック(本学ポータルサイトトップページが表示されます。) ※画面下「シラバス」>「シラバスを検索するにはこちらをクリックしてください。」をクリック

2023年の 教育目標・授業に 臨む姿勢	卒業論文では、問題なく卒業できるように学生に対して指導を行う。また本年度から修士課程のゼミも担当するため、来年度の修士論文・執筆に向けて、学生個々の研究のサポートを着実に行いたい。芸術特別研究は、本年度で現行の運用での開講が最終年度となるため、取りこぼす学生をなるべく少なくしたい。また、芸術特別研究に代わって新規開講する芸術鑑賞は、問題なく運営できるよう務める。その他の科目でも、シラバスで掲げた教育目標を達成できるように努力したい。
2023年の教育に関 する自己評価	卒業論文は本年度も履修者4名を無事に提出までこぎつけることができた。芸術特別研究では、取りこぼす学生が少なくなるように、例年より手厚い救済を実施することを所属の学内組織で決定した。また新規開講の芸術鑑賞では、芸術特別研究とは科目運用が大きく変更となったため、チケットの手配や学生のチケット負担について、混乱が生じた部分が出てしまった。次年度はこの反省を生かして、より円滑な科目運用ができるようにしたい。他科目についても教育目標はおおむね達成できたと考える。

2023年のFD活動 に関する自己評価	全体FDでは日々の業務からはあまり考える余裕のない大局的な観点から、新しい知見が得ることができた。アートマネジメントの学内組織FD研修会は、非常勤の先生方だからこそその視点からの意見が非常に勉強になった。芸特の学内組織FDでは、研修テーマを踏まえ、書記の立場で議論をリードし、有意義な意見交換ができた。
授業改善のために 取り入れた研修内容	芸術特別研究の学内組織FDでは、ほぼ全学1・2年生の必修という大規模な授業であり、出身やコースが異なる学生に対して、どのようにして鑑賞を通じて視野を広げられるか、その成果をどのようにレポートではかれるかが毎年の議論になっている。それぞれの教員が所属するコースの立場からの意見が出され、特に今年は後期から芸術特別研究の後継科目として芸術鑑賞が新規開講することから、その運用を考える上で、とても参考となった。またアートマネジメントの学内組織FDでは、専任教員以外の立場から見る今の学生像は、学内にいると中々に気づけない内容で、非常に興味深かった。

2023 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2050 教員名:吉原 潤

1)アンケート結果に対する所見

おおむね授業科目平均が全体平均を上回っているが、下回っている項目に関しては、次年度以降の授業運営の参考として、改善策を探りたい。

2)要望への対応・改善方策

自由記述が特にないため、具体的な要望が不明であり、対応・改善方策の検討が難しい。

3)今後の課題

一部、ゼミの授業科目で「授業は学修成果を得るための工夫がなされている」の設問について、「少し思う」が多く、授業科目平均が全体平均を下回る形となった。ゼミ科目は、特に、履修者の主体的な学修態度が必要ではあるものの、教員としてその主体性を引き出ことが学修成果につながるため、どのような工夫が必要かについて考えたい。

■3名以上の担当科目:

1)アンケート結果に対する所見

複数教員での担当科目については、ほとんどは授業科目平均が全体平均を上回っており、引き続き高い評価が得られるように努めたい。

2)要望への対応・改善方策

「企画制作演習Ⅰ」で、発表形式を毎回パワポとし、発表中心にしてほしいという要望があった。発表の基本となるのがあくまで事前に提出させる課題(企画書)であるため、完全に発表中心にするというのは授業の趣旨からして難しいが、多様な発表方法の使用については改善を検討したい。

3)今後の課題

一部科目で、予習・復習の有無の設問で授業科目平均が全体平均より落ちている科目があった。当該科目は、インターンシップ科目(「フィールドインターンシップ①」)であるが、希望先への派遣の前段階として事前指導にあたる授業を複数回実施しており、予習、特に復習を確実にしてほしい内容となっている。授業内で十分な復習をするように学生へと指導したい。

以 上